

## 悪質商法と詐欺に対する大学生の遭遇経験

深田博己・石井里絵・児玉真樹子・樋口匡貴

Encounter experiences with malicious business and fraud among university students

Hiromi Fukada, Rie Ishii, Makiko Kodama, and Masataka Higuchi

悪質商法と詐欺に対する大学生の遭遇経験と被害経験の実態を明らかにすることが研究の目的であった。質問紙を利用した集合調査法による調査を実施し、有効回答者は大学生 378 名（男性 173 名、女性 205 名）であった。19 種類の悪質商法と 9 種類の詐欺に関して、被調査者自身の直接経験と、友人の大学生の経験の見聞である間接経験を尋ねた。その結果、(1)悪質商法と詐欺の直接遭遇経験者は 24.1%と 37.0%、直接被害経験者は 1.6%と 3.2%であること、(2)直接経験、間接経験を問わず、遭遇経験は詐欺の方が悪質商法より高いこと、(3)直接経験としては、詐欺の中ではワンクリック詐欺と架空請求詐欺が、悪質商法の中ではキャッチセールス商法が最も遭遇しやすいことが判明した。また、間接遭遇経験が直接遭遇経験を下回っていたことから、情報の共有が十分でないと指摘された。

キーワード：詐欺、悪質商法、遭遇経験、被害経験、大学生

### 問 題

平成 20 年度版の犯罪白書（法務省法務総合研究所, 2008）によると、詐欺の認知件数は、平成 13 年までは横ばい状態であったが、平成 14 年以降年々増加し、平成 17 年（85,596 件）にピークを迎え、平成 18 年（74,632 件）、平成 19 年（67,787 件）と減少してきた。平成 19 年の詐欺事件の認知件数 67,787 件に対する検挙件数は 27,963 件であり、41.3%の検挙率であった。詐欺全体の認知件数は減少しているものの、詐欺の中でも振り込め詐欺（恐喝）の急増が被害を深刻化させ、社会問題化させている。振り込め詐欺（恐喝）は、オレオレ詐欺（恐喝）、架空請求詐欺（恐喝）、融資補償金詐欺、還付金等詐欺の総称である。平成 19 年の振り込め詐欺（恐喝）の認知件数は 17,930 件、検挙件数は 3,079 件、検挙率は 17.2%であった。他の詐欺に比べて振り込め詐欺の検挙率が極端に低いこと、振り込め詐欺の被害総額が 251 億円以上に達すること、また、平成 20 年の上半期に認知件数がすでに 1 万件を突破し、再び増加傾向が見られることから、振り込め詐欺の被害防止が緊急課題となる。

他方、平成 20 年版の警察白書（警察庁, 2008）によると、平成 19 年には、悪質商法の中で海外

事業への投資や未公開株の取引を装って多額の出資金を騙し取る資産形成事犯（資産形成の各種取り引きに係る出資法、金融商品取引法、無限連鎖講の防止に関する法律等の違反に係る事犯）と、点検商法や靈感商法といった特定商取引等に係る事犯が目立った。また、深田（1998）は、勧誘者が嘘をついて消費者を欺き、商品やサービスを標準より高額で購入させたり、出資させてその出資金を奪い取る行為を、悪徳商法（＝悪質商法）と呼び、街頭での勧誘、友人・知人からの勧誘、自宅での訪問販売、電話による勧誘、新聞・チラシによる勧誘、その他の商法の6つに分類し、17種類の悪徳商法を挙げている。そして、大学生が騙されやすい悪徳商法として、自己啓発セミナー、英会話教材、エステの3種類を指摘した。

悪質商法は特定商取引法等に抵触する行為であるが、社会通念としての悪質商法の概念と法律的に規定される詐欺の概念には重複する部分があり、厳密な区分ができない。悪質商法と詐欺との明確な区別が困難であるので、本研究では、被調査者である大学生の理解のしやすさを考慮し、一般的に悪質商法と呼ばれる詐欺的行為に対しては悪質商法の用語を使用し、一般的に詐欺の名称が使用される詐欺行為に限定して詐欺の用語を使用する。

本研究の目的は、大学生がどの程度悪質商法や詐欺に遭遇しているのか、また、どの程度悪質商法や詐欺の被害にあっているのか、その実態を把握することである。実態を把握することによって、次の段階で、悪質商法や詐欺による被害を防止するための有効な対策を講じることが可能となる。

## 方 法

### 調査の概要

調査対象者は、広島県内のH大学2年生416名であった。有効回答者は378名であり、有効回答率は90.9%であった。有効回答者の内訳は、男性173名、女性205名、平均年齢20.8歳であった。

調査は、「大学生の悪質商法・詐欺の遭遇経験に関する実態調査」と題する、A4版7ページ（片面印刷）の質問紙調査票を使用して、授業時間中に集合調査法により、2008年9月12日～16日に実施した。

### 取上げた悪質商法と詐欺

大学生が遭遇したかどうか、調査のターゲットとする悪質商法として、①キャッチセールス商法、②アポイントメントセールス商法、③マルチ・マルチまがい商法、④デート商法、⑤資格商法、⑥自己啓発教材商法、⑦SF（催眠）商法、⑧ホームパーティ商法、⑨原野商法、⑩先物取引商法、⑪会員権商法、⑫靈感商法、⑬福祉商法、⑭点検商法、⑮見本工事商法、⑯内職商法、⑰就職（求人）商法、⑱現物まがい商法、⑲ネガティブオプション商法、の合計19種類の悪質商法を取上げた。

また、調査のターゲットとする詐欺として、㉔振り込み詐欺（オレオレ詐欺に限定）、㉕架空請求詐欺、㉖ワンクリック詐欺、㉗フィッシング詐欺、㉘オークション詐欺、㉙手数料詐欺、㉚クレジットカード詐欺、㉛リフォーム詐欺、㉜結婚詐欺、の合計9種類の詐欺を取上げた。ただし、本研究では、㉔振り込み詐欺をオレオレ詐欺に限定して用いたので、以後の記述では振り込み詐欺をオレオレ詐欺と置き換える。

以上の、19種類の悪質商法と9種類の詐欺の特徴については、表1と表2に整理して示した。

### 質問紙の構成

**表紙** 第1ページは表紙であり、調査主題、調査者、協力のお願ひ、回答上の注意、回答例が記載されていた。

**直接遭遇経験** 第2ページ～第4ページでは、「問1」として、19種類の悪質商法と9種類の詐欺に関する調査対象者自身の大学入学後の直接遭遇経験、その回数、金銭的被害を尋ねた。

質問文は次のとおりであった。「大学に入学してからこれまで、あなた自身が下記の悪質商法・詐欺に遭遇した経験と金銭的被害についてお聞きします。」という質問文に引き続き、「それぞれの悪質商法や詐欺に遭遇したことがありますか？当てはまる回答に○をつけてください。「遭遇したこ

表1 本研究で扱う19種類の悪質商法とその特徴

1	キャッチセールス商法	街頭などで声をかけ、喫茶店や営業所などに誘うなどして、商品・サービスを売りつけるもの。
2	アポイントメントセールス商法	電話や郵便などで「当選した」などと言い、喫茶店や営業所に誘い出し、商品・サービスを売りつけるもの。
3	マルチ・マルチまがい商法	商品を買って会員になり、知人に売ったり、知人を紹介するなど加入者を増やすことで、大きな利益が得られるとあって契約させるもの。
4	デート商法	見知らぬ異性が「お話したい」などと呼び出し、デートをするうちに、商品・サービスを売りつけるもの。
5	資格商法	「講座を受ければ国家試験免除」、「近く国家資格になる」などと言って、講座や教材を売りつけるもの。
6	自己啓発教材商法	購入した自己啓発の書物に挟まれているハガキなどで資料請求すると、勧誘され高い教材を売りつけられるもの。
7	SF(催眠)商法	「無料で商品をあげる」などと言って会場に誘い、その場の雰囲気のにせて高額な商品を売りつけるもの。
8	ホームパーティー商法	「みんなで、料理の講習会を開きませんか」などと言って周囲の人を集め、高額な商品を売りつけるもの。
9	原野商法	「将来値上がりは確実」などと言って、ほとんど価値のない土地などを高値で売りつけるもの。
10	先物取引商法	取引の仕組みがわからないことに乗じ、「儲かる」と言って、穀物などの先買いの取引を迫ってくるもの。
11	会員権商法	リゾートクラブ、ゴルフクラブ会員権など「将来値上がりする」などと言って勧めるもの。
12	靈感商法	人の不幸や不安につけ込み、「買うと運勢がよくなる」などと言って高額な商品を売りつけるもの。
13	福祉商法	「目の見えない人に盲導犬を贈る」など福祉目的を言って、商品を売りつけるもの。
14	点検商法	無料または安価に「点検」を行い、「危険な状態」「修理が必要」などと言って不安をあおり、商品やサービスを販売するもの。
15	見本工事商法	「カタログに写真を掲載させてもらう」など見本工事の特別料金だと言うが、実際には安くせずに売りつけるもの。
16	内職商法	「在宅で簡単に高収入」などと言って誘い、材料や機械、研修教材を売りつけたりするもの。
17	就職(求人)商法	「社員募集」、「アルバイト募集」の広告を出し、応募した人に商品を売りつけるもの。
18	現物まがい商法	売りつけた金、ダイヤモンドなどを一定期間預かり、利子をつけて返すと言っておきながら、現物は渡さないもの。
19	ネガティブオプション商法	注文していない商品を一方的に送りつけ、商品を受け取らなければならないと勘違いさせ、金を支払わせるもの。

表2 本研究で扱う9種類の詐欺とその特徴

1	振り込み詐欺 (オレオレ詐欺)	いわゆる「オレオレ詐欺」。電話やはがきなどの文書などで相手をだまし、お金の振り込みを要求するもの。
2	架空請求詐欺	根拠のない請求をして、お金をだまし取るもの。
3	ワンクリック詐欺	パソコンや携帯電話からウェブサイトアクセスし、URLなどをクリックすると「登録ありがとうございます」などと表示され、料金を請求されるもの。
4	フィッシング詐欺	有名企業など本物のウェブサイトを装い、「新規サービスへの移行のため、登録内容の再入力をお願いします」などと言って、口座番号などの個人情報盗むもの。
5	オークション詐欺	主に、インターネットオークションで、お金を支払ったのに、商品が届かないなどのこと。
6	手数料詐欺	インターネットオークションなどの売買で、送料や手数料をだまし取るもの。
7	クレジットカード詐欺	本来の金額にこっそりと金額を上乗せしたりして、お金をだまし取るもの。
8	リフォーム詐欺	実際にリフォーム工事はしないが、リフォーム工事の材料・工事費などと言ってお金をだまし取るもの。
9	結婚詐欺	結婚する意思がないのに、結婚するとして異性に近づき、相手をだまして金品を取るもの。

とがある場合」には、その回数も回答してください。また、遭遇した場合、金銭的な被害がありましたか？当てはまる回答に○をつけてください。」と質問した。

表1と表2に示した説明文を添えて、19種類の悪質商法と9種類の詐欺提示し、直接遭遇経験の有無を「ある」「ない」の2件法で回答させた。そして、あると回答した場合は、直接遭遇経験の回数を( )内に記入させ、金銭的被害の有無を「あった」「なかった」の2件法で回答させた。

**間接遭遇経験** 第5ページ～第7ページでは、「問2」として、19種類の悪質商法と9種類の詐欺に関する調査対象者の友人である大学生の遭遇経験、その回数、金銭的被害を尋ねた。

質問文は次のとおりであった。「大学生の友人が下記の悪質商法・詐欺に遭遇した経験と金銭的被害についてお聞きます。」という質問文に引き続き、「それぞれの悪質商法や詐欺に大学生の友人が遭遇したという経験を聞いたことがありますか？当てはまる回答に○をつけてください。「聞いたことがある場合」には、わかればその回数も回答してください。また、その中に、実際、金銭的な被害にあったケースがありましたか？当てはまる回答に○をつけてください。」と質問した。

直接遭遇経験の場合と同様に、表1と表2に示した説明文を添えて、19種類の悪質商法と9種類の詐欺を提示し、間接遭遇経験の有無を「ある」「ない」の2件法で回答させた。そして、あると回答した場合は、間接遭遇経験の回数を( )内に記入させ、金銭的被害の有無を「あった」「なかった」の2件法で回答させた。

**性別と年齢** 第7ページの末尾で、調査対象者の性別と年齢を尋ねた。なお、質問終了後の余白に記入漏れがないかどうかの確認のお願いと、調査協力に対するお礼の言葉を記載した。

## 結果と考察

### 悪質商法と詐欺の種類別の直接遭遇経験と直接被害経験

**悪質商法の種類別の直接遭遇経験** 調査対象者の大学生が大学入学後に直接経験した悪質商法

の種類別の件数と比率を表3に示した。直接遭遇経験率が高かった悪質商法は、①キャッチセールス商法 11.4%、②アポイントメントセールス商法 4.0%、⑭点検商法 4.0%、③マルチ・マルチまがい商法 2.6%、⑤資格商法 2.6%、⑥自己啓発教材商法 2.4%であった。このほかにも遭遇経験率は低いものの、SF（催眠）商法、福祉商法、靈感商法、ネガティブオプション商法、デート商法、会員権商法、ホームパーティー商法、内職商法、就職（求人）商法、原野商法など、非常に広範囲な悪質商法への直接遭遇経験が報告された。

また、①キャッチセールス商法の直接遭遇経験率には性差が見られ、女性（15.6%）の方が男性（6.4%）よりも直接遭遇経験率は有意に高かった（ $\chi^2(1)=7.97, p<.01$ ）。

**詐欺の種類別の直接遭遇経験** 大学生が大学入学後に直接経験した詐欺の種類別の件数と比率を表4に示した。直接遭遇経験率が高かった詐欺は、㉔ワンクリック詐欺 25.7%、㉕架空請求詐欺 17.7%、㉖オレオレ詐欺 3.2%、㉗オークション詐欺 2.4%であった。このほかにも遭遇経験率は低いが、フィッシング詐欺への遭遇経験も報告された。

また、㉔ワンクリック詐欺の直接遭遇経験率には性差が見られ、男性（33.5%）の方が女性（19.0%）よりも直接遭遇経験率は有意に高かった（ $\chi^2(1)=10.34, p<.001$ ）。

**悪質商法の種類別の直接被害経験** 大学生が大学入学後に直接被害を受けた悪質商法の種類別の件数と比率を表5に示した。悪質商法による直接被害経験率は低いものの、⑭点検商法 1.1%、⑰就職（求人）商法 0.3%、⑱ネガティブオプション商法 0.3%が報告された。

表3 悪質商法の種類別にみた直接遭遇経験者数（比率）

悪質商法	全体	男性	女性
キャッチセールス商法	43 (11.4%)	11 (6.4%)	32 (15.6%)
アポイントメントセールス商法	15 (4.0%)	6 (3.5%)	9 (4.4%)
点検商法	15 (4.0%)	9 (5.2%)	6 (2.9%)
マルチ・マルチまがい商法	10 (2.6%)	5 (2.9%)	5 (2.4%)
資格商法	10 (2.6%)	5 (2.9%)	5 (2.4%)
自己啓発教材商法	9 (2.4%)	6 (3.5%)	3 (1.5%)
SF(催眠)商法	7 (1.9%)	1 (0.6%)	6 (2.9%)
福祉商法	7 (1.9%)	2 (1.2%)	5 (2.4%)
靈感商法	6 (1.6%)	2 (1.2%)	4 (2.0%)
ネガティブオプション商法	5 (1.3%)	0 (0.0%)	5 (2.4%)
デート商法	4 (1.1%)	3 (1.7%)	1 (0.5%)
会員権商法	2 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
ホームパーティー商法	2 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.5%)
内職商法	2 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
就職(求人)商法	2 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
原野商法	1 (0.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)

表4 詐欺の種類別にみた直接遭遇経験者数（比率）

詐欺	全体	男性	女性
ワンクリック詐欺	97 (25.7%)	58 (33.5%)	39 (19.0%)
架空請求詐欺	67 (17.7%)	34 (19.7%)	33 (16.1%)
オレオレ詐欺	12 (3.2%)	4 (2.3%)	8 (3.9%)
オークション詐欺	9 (2.4%)	5 (2.9%)	4 (2.0%)
フィッシング詐欺	1 (0.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)

表5 悪質商法の種類別にみた直接被害経験者数（比率）

詐欺	全体	男性	女性
点検商法	4 (1.1%)	2 (1.2%)	2 (1.0%)
就職(求人)商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
ネガティブオプション商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)

表6 詐欺の種類別にみた直接被害経験者数（比率）

詐欺	全体	男性	女性
オークション詐欺	6 (1.6%)	4 (2.3%)	2 (1.0%)
ワンクリック詐欺	4 (1.1%)	2 (1.2%)	2 (1.0%)
架空請求詐欺	2 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
オレオレ詐欺	1 (0.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)

表7 悪質商法の種類別にみた間接遭遇経験者数（比率）

悪質商法	全体	男性	女性
キャッチセールス商法	15 (4.0%)	7 (4.0%)	8 (3.9%)
マルチ・マルチまがい商法	14 (3.7%)	8 (4.6%)	6 (2.9%)
点検商法	5 (1.3%)	3 (1.7%)	2 (1.0%)
デート商法	3 (0.8%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)
アポイントメントセールス商法	3 (0.8%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)
自己啓発教材商法	3 (0.8%)	2 (1.2%)	1 (0.5%)
SF(催眠)商法	3 (0.8%)	1 (0.6%)	2 (1.0%)
靈感商法	3 (0.8%)	0 (0.0%)	3 (1.5%)
福祉商法	1 (0.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)
資格商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
見本工事商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
内職商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
就職(求人)商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)

**詐欺の種類別の直接被害経験** 大学生が大学入学後に直接被害を受けた詐欺の種類別の件数と比率を表6に示した。詐欺による直接被害経験率は低いものの、㉔オークション詐欺1.6%、㉕ワンクリック詐欺1.1%、㉖架空請求詐欺0.5%、㉗オレオレ詐欺0.3%が報告された。

#### 悪質商法と詐欺の種類別の間接遭遇経験と間接被害経験

**悪質商法の種類別の間接遭遇経験** 調査対象者の大学生の友人が経験した悪質商法の種類別の件数と比率を表7に示した。間接遭遇経験率が高かった悪質商法は、①キャッチセールス商法4.0%、③マルチ・マルチまがい商法3.7%であった。このほかにも遭遇経験率は低いものの、点検商法、デート商法、アポイントメントセールス商法、自己啓発教材商法、SF(催眠)商法、靈感商法、福祉商法、資格商法、見本工事商法、内職商法、就職(求人)商法への間接遭遇経験が報告された。なお、悪質商法の種類別の間接遭遇経験率には、全く性差が見られなかった。

悪質商法に関しては、直接的遭遇経験率に比べて、間接的遭遇経験率の方が総じて低い。遭遇経験者が自己の遭遇経験を周囲の友人大学生に話せば、間接遭遇経験率の方が直接遭遇経験率を上回る可能性が大きくなる。すなわち、遭遇経験者が自己の遭遇経験を最低1名の友人大学生に伝達す



れば、理論上は直接遭遇経験率と間接遭遇経験率が等しくなるはずである。それにもかかわらず、間接遭遇経験率が直接遭遇経験率を下回るということは、悪質商法への遭遇経験者が自己の遭遇経験を周囲の友人大学生に伝達していないことを意味する。これは、悪質商法への遭遇経験を共有することによって、悪質商法による新たな被害が出ることを防止する対策を講ずる際に、打破しなければならない極めて重要な問題である。

**詐欺の種類別の間接遭遇経験** 調査対象者の大学生の友人が経験した詐欺の種類別の件数と比率を表8に示した。遭遇経験率が高かった詐欺は、㉔ワンクリック詐欺14.3%、㉕架空請求詐欺7.1%、㉖オレオレ詐欺6.3%、㉗オークション詐欺3.7%であった。このほかにも遭遇経験率は低いが、フィッシング詐欺、クレジットカード詐欺、結婚詐欺、手数料詐欺への間接遭遇経験が報告されていた。

また、㉔ワンクリック詐欺と㉖オレオレ詐欺の間接遭遇経験率には性差がみられ、ともに男性(23.7%、9.2%)の方が女性(6.3%、3.9%)よりも間接遭遇経験率が有意に高かった( $\chi^2(1)=23.09, p<.001$ ;  $\chi^2(1)=4.51, p<.05$ )。

詐欺に関しても、悪質商法の場合と同様に、直接的遭遇経験率に比べて、間接的遭遇経験率の方が総じて低い。この理由は、悪質商法の場合と同じで、詐欺への遭遇経験者が自己の遭遇経験を周囲の友人大学生に伝達していないことを意味し、詐欺による被害防止の対策を講ずる上で、積極的に改善を図る必要のある問題である。

**悪質商法の種類別の間接被害経験** 調査対象者の大学生の友人が被害を受けた悪質商法の種類別の件数と比率を表9に示した。悪質商法による友人の被害経験率は低いものの、㉑マルチ・マルチまがい商法2.1%、㉒キャッチセールス商法、㉓デート商法、㉔資格商法、㉕SF(催眠)商法、㉖靈感商法、㉗点検商法、㉘見本工事商法が各0.3%報告された。悪質商法の間接的被害経験率は、直接的被害経験率とほとんど差は見られない。

**詐欺の種類別の間接被害経験** 調査対象者の大学生の友人が被害を受けた詐欺の種類別の件数と比率を表10に示した。詐欺による友人の被害経験率は低いが、㉗オークション詐欺2.1%、㉔ワンクリック詐欺1.1%、㉖オレオレ詐欺0.8%、㉕架空請求詐欺0.5%、㉘クレジットカード詐欺0.5%、㉑結婚詐欺0.3%が報告された。詐欺の間接的被害経験率は、直接的被害経験率とほとんど差は見られない。

表8 詐欺の種類別にみた間接遭遇経験者数(比率)

詐欺	全体	男性	女性
ワンクリック詐欺	54 (14.3%)	41 (23.7%)	13 (6.3%)
架空請求詐欺	27 (7.1%)	17 (9.8%)	10 (4.9%)
オレオレ詐欺	24 (6.3%)	16 (9.2%)	8 (3.9%)
オークション詐欺	14 (3.7%)	5 (2.9%)	9 (4.4%)
フィッシング詐欺	2 (0.5%)	2 (1.2%)	0 (0.0%)
クレジットカード詐欺	2 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
結婚詐欺	2 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.5%)
手数料詐欺	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)

表9 悪質商法の種類別にみた間接被害経験者数（比率）

悪質商法	全体	男性	女性
マルチ・マルチまがい商法	8 (2.1%)	4 (2.3%)	4 (2.0%)
キャッチセールス商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
デート商法	1 (0.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)
資格商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
SF(催眠)商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
靈感商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
点検商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
見本工事商法	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)

表10 詐欺の種類別にみた間接被害経験者数（比率）

詐欺	全体	男性	女性
オークション詐欺	8 (2.1%)	1 (0.6%)	7 (3.4%)
ワンクリック詐欺	4 (1.1%)	4 (2.3%)	0 (0.0%)
オレオレ詐欺	3 (0.8%)	1 (0.6%)	2 (1.0%)
架空請求詐欺	2 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
クレジットカード詐欺	2 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
結婚詐欺	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)

### 悪質商法全般と詐欺全般の遭遇経験と被害経験

**悪質商法全般への遭遇経験** 19種類の悪質商法のいずれか1種類以上に対して直接遭遇経験のある大学生（直接遭遇経験者）の人数と比率、19種類の悪質商法のいずれか1種類以上に対して遭遇経験のある友人大学生を持つ大学生（間接遭遇経験者）の人数と比率、19種類の悪質商法のいずれか1種類以上に対して直接遭遇経験あるいは間接遭遇経験のうち、少なくともどちらか一方のある大学生（直接/間接遭遇経験者）の人数と比率を、表11の左欄に示した。

19種類の悪質商法のいずれかに対する直接遭遇経験者率は、24.1%の高率に達する。大学生の4人に1人が悪質商法を直接体験していることは注目すべき数値である。また、19種類の悪質商法のいずれかに対して遭遇経験のある大学生を友人に持つ間接遭遇経験者率は10.8%である。間接遭遇経験者率は、直接遭遇経験者率に比べて半分以下と低い。悪質商法に関して直接遭遇経験か、間接遭遇経験のどちらかのある直接/間接遭遇経験者率は29.4%にのぼる。悪質商法が大学生にとって身近な脅威となっていることがわかる。

**悪質商法全般の被害経験** 19種類の悪質商法のいずれか1種類以上で直接被害経験のある大学生（直接被害経験者）の人数と比率、19種類の悪質商法のいずれか1種類以上で被害経験のある友人大学生を持つ大学生（間接被害経験者）の人数と比率、19種類の悪質商法のいずれか1種類以上で直接被害経験あるいは間接被害経験のうち、少なくともどちらか一方のある大学生（直接/間接被害経験者）の人数と比率を、表12の左欄に示した。

19種類の悪質商法のいずれかでの金銭的な直接被害経験者率は1.6%である。また、19種類の悪質商法のいずれかで被害経験のある大学生を友人に持つ間接被害経験者率は3.4%である。悪質商法で直接あるいは間接の被害経験のある直接/間接被害経験者率は5.0%と、実に20人に1人となっている。



表 11 悪質商法全般・詐欺全般の遭遇経験者数（比率）

	悪質商法	詐欺
直接経験	91 (24.1%)	140 (37.0%)
間接経験	41 (10.8%)	91 (24.1%)
直接／間接	111 (29.4%)	180 (47.6%)

表 12 悪質商法全般・詐欺全般の被害経験者数（比率）

	悪質商法	詐欺
直接経験	6 (1.6%)	12 (3.2%)
間接経験	13 (3.4%)	20 (5.3%)
直接／間接	19 (5.0%)	32 (8.5%)

**詐欺全般への遭遇経験** 9種類の詐欺のいずれか1種類以上に対して直接遭遇経験のある大学生（直接遭遇経験者）の人数と比率、9種類の詐欺のいずれか1種類以上に対して遭遇経験のある友人大学生を持つ大学生（間接遭遇経験者）の人数と比率、9種類の悪質商法のいずれか1種類以上に対して直接遭遇経験あるいは間接遭遇経験のうち、少なくともどちらか一方のある大学生（直接／間接遭遇経験者）の人数と比率を、表11の右欄に示した。

9種類の詐欺のいずれかに対する直接遭遇経験者率は、37.0%の高率に達する。大学生の3人に1人以上が詐欺を直接体験していることは驚愕すべき数値である。また、9種類の詐欺のいずれかに対して遭遇経験のある大学生を友人に持つ間接遭遇経験者率も24.1%に達する。ここでも間接遭遇経験者率は、直接遭遇経験者率に比べてかなり低い。詐欺に関して直接遭遇経験か、間接遭遇経験のどちらかのある直接／間接遭遇経験者率は47.6%にもなっており、約半数の大学生が直接間接に詐欺を経験していることが判明した。詐欺は、悪質商法以上に、大学生にとって身近な脅威となっていることがわかる。

**詐欺全般への被害経験** 9種類の詐欺のいずれか1種類以上で直接被害経験のある大学生（直接被害経験者）の人数と比率、9種類の詐欺のいずれか1種類以上で被害経験のある友人大学生を持つ大学生（間接被害経験者）の人数と比率、9種類の詐欺のいずれか1種類以上で直接被害経験あるいは間接被害経験のうち、少なくともどちらか一方のある大学生（直接／間接被害経験者）の人数と比率を、表12の右欄に示した。

9種類の詐欺のいずれかでの金銭的な直接被害経験者率は3.2%である。また、9種類の詐欺のいずれかで被害経験のある大学生を友人に持つ間接被害経験者率は5.3%である。詐欺で直接あるいは間接の被害経験のある直接／間接被害経験者率は8.5%と、実に12人に1人以上となっている。

**遭遇経験と被害経験に関する悪質商法と詐欺の差** 直接遭遇経験者率は、詐欺（37.0%）の方が悪質商法（24.1%）よりも有意に高く（ $\chi^2(1)=9.38, p<.01$ ）、間接遭遇経験者率も、詐欺（24.1%）の方が悪質商法（10.8%）よりも有意に高かった（ $\chi^2(1)=18.54, p<.001$ ）。そして、直接／間接遭遇経験者率も、詐欺（47.6%）の方が悪質商法（29.4%）よりも有意に高かった（ $\chi^2(1)=16.83, p<.001$ ）。

直接被害経験者率は、詐欺（3.2%）の方が悪質商法（1.6%）よりも高い傾向があり（ $\chi^2(1)=3.61, p<.10$ ）、間接被害経験者率も、詐欺（5.3%）の方が悪質商法（3.4%）よりも高い傾向があった（ $\chi^2(1)=2.74, p<.10$ ）。そして、直接／間接遭遇経験者率は、詐欺（8.5%）の方が悪質商法（5.0%）よりも有意に高かった（ $\chi^2(1)=4.09, p<.05$ ）。

遭遇経験と被害経験のいずれにおいても、また、直接経験と間接経験のいずれにおいても、詐欺の方が悪質商法よりも経験率が上回っていた。今回の調査で取上げた悪質商法の種類が19種類であるのに対し、詐欺は9種類と少なかったにもかかわらず、詐欺に関する経験率が悪質商法に関する経験率を上回っていたことは、現代の大学生にとって、悪質商法よりも詐欺の方が遭遇確率も被害確率も高いことが判明した。

### 補助分析

**遭遇経験に関する直接経験と間接経験の相関** 遭遇経験があると、調査対象者が回答した悪質商法に1点を与え、19種類の悪質商法のうち、遭遇経験のある悪質商法の数を悪質商法遭遇経験得点とした。同様の手続きで、9種類の詐欺のうち、遭遇経験のある詐欺の数を詐欺遭遇経験得点とした。対象者全体および男女別に、悪質商法への遭遇に関する直接経験得点と間接経験得点の間で、また詐欺への遭遇に関する直接経験得点と間接経験得点の間でピアソンの積率相関係数  $r$  を算出し、表13に示した。悪質商法への遭遇経験に関しては、男性、女性、全体の全てで直接経験と間接経験の間に弱い正の相関係数が得られたが、詐欺への遭遇に関しては、男性においてのみ直接経験と間接経験の間に弱い正の相関係数が得られ、女性では有意な相関係数は得られなかった。この全体での相関係数の大きさは男性の結果を反映している。悪質商法遭遇経験得点と詐欺遭遇経験得点の間には弱い正の相関関係が見られた。

次に、対象者全体および男女別に、直接経験に関する悪質商法遭遇得点と詐欺遭遇得点の間で、また間接経験に関する悪質商法遭遇得点と詐欺遭遇得点の間でピアソンの積率相関係数  $r$  を算出し、表14に示した。男性、女性、全体の全てで、直接遭遇経験と間接遭遇経験の両方において、悪質商法遭遇経験得点と詐欺遭遇経験得点の間には弱い正の相関関係が得られた。

**悪質商法全般と詐欺全般の経験に関する性差** 悪質商法全般への直接遭遇経験者率、間接遭遇経験者率、直接／間接遭遇経験者率を、男女別に求め、表15に示した。悪質商法の直接遭遇経験者率は、女性（27.8%）の方が男性（19.7%）よりも高い傾向が見られた（ $\chi^2(1)=3.41, p<.10$ ）。しかし、間接遭遇経験者率と直接／間接遭遇経験者率では、性差は認められなかった。

詐欺全般への直接遭遇経験者率、間接遭遇経験者率、直接／間接遭遇経験者率を、男女別に求め、表16に示した。詐欺の直接遭遇経験者率、間接遭遇経験者率、直接／間接遭遇経験者率は、いずれも男性（順に43.9%、33.5%、55.5%）の方が女性（順に31.2%、16.1%、41.0%）よりも有意に高かった（順に $\chi^2(1)=6.50, p<.05$ ;  $\chi^2(1)=15.59, p<.001$ ;  $\chi^2(1)=7.93, p<.01$ ）。

悪質商法全般の直接被害経験者率、間接被害経験者率、直接／間接被害経験者率を、男女別に求め、表17に示した。いずれの経験者率についても、性差は有意でなかった。詐欺全般の直接被害経験者率、間接被害経験者率、直接／間接被害経験者率を、男女別に求め、表18に示した。いずれの

表 13 遭遇経験得点に関する直接経験と間接経験の相関係数

	全体	男性	女性
悪質商法	.24 ***	.29 ***	.21 **
詐欺	.29 ***	.44 ***	.08

注1)\*\*\* $p$ <.001, \*\* $p$ <.01, \* $p$ <.05

表 14 遭遇経験得点に関する悪質商法と詐欺の相関係数

	全体	男性	女性
直接経験	.24 ***	.20 **	.29 ***
間接経験	.20 ***	.19 *	.21 **

注1)\*\*\* $p$ <.001, \*\* $p$ <.01, \* $p$ <.05

表 15 悪質商法の遭遇経験者数 (比率)

	男性	女性
直接経験	34 (19.7%)	57 (27.8%)
間接経験	19 (11.0%)	22 (10.7%)
直接/間接	44 (25.4%)	67 (32.7%)

表 16 詐欺の遭遇経験者数 (比率)

	男性	女性
直接経験	76 (43.9%)	64 (31.2%)
間接経験	58 (33.5%)	33 (16.1%)
直接/間接	96 (55.5%)	84 (41.0%)

表 17 悪質商法の被害経験者数 (比率)

	男性	女性
直接経験	2 (1.2%)	4 (2.0%)
間接経験	5 (2.9%)	8 (3.9%)
直接/間接	7 (4.0%)	12 (5.9%)

表 18 詐欺の被害経験者数 (比率)

	男性	女性
直接経験	7 (4.0%)	5 (2.4%)
間接経験	6 (3.5%)	14 (6.8%)
直接/間接	13 (7.5%)	19 (9.3%)

経験者率についても、性差は有意でなかった。

なお、悪質商法と詐欺への直接遭遇経験の回数および間接遭遇経験の回数に関しては、無回答が多く、正確な集計が不可能であったので、本研究では遭遇経験回数は分析しなかった。

## まとめ

- 1) 大学生の間での悪質商法と詐欺に対する直接遭遇経験者は、それぞれ 24.1%と 37.0%に達し、看過できない割合であることが判明した。
- 2) 大学生の間での悪質商法と詐欺による金銭的被害を被った直接被害経験者は、それぞれ 1.6%と 3.2%存在することが判明し、大学としての早急な被害防止策の実施が必要であることが指摘される。
- 3) 調査対象者自身の直接経験に加えて、友人の大学生の遭遇経験や被害経験を見聞したことがあるかどうかという間接経験を調べた結果、被害経験には直接経験と間接経験の間に差が見られないが、遭遇経験に関しては間接経験が直接経験を下回っていた。このことは、悪質商法や詐欺への直接遭遇経験が他者に共有されていないことを示し、情報の共有化による被害防止向上につなげなければならないと示唆される。
- 4) 直接遭遇経験、直接被害経験、間接遭遇経験、間接被害経験などの全てのデータから、大学生にとって、詐欺のほうが悪質商法よりも身近に遭遇する可能性は高いことが明らかとなった。
- 5) 直接遭遇経験から、大学生が遭遇しやすい詐欺は、ワンクリック詐欺と架空請求詐欺であることが示された。また、大学生が最も遭遇しやすい悪質商法はキャッチセールス商法であることが示された。

## 引用文献

- 深田博己(1998). インターパーソナル・コミュニケーション—対人コミュニケーションの心理学—  
北大路書房
- 法務省法務総合研究所(2008). 犯罪白書(平成 20 年版) —高齢者犯罪の実態と処遇— 時事通信社
- 警察庁(2008). 平成 20 年版警察白書 ぎょうせい